

## 海外学生派遣事業実績報告書

氏名：趙 正実 (Zhao zhengshi)

所属：総合研究大学院大学 物理科学研究科 天文科学専攻

派遣先国名：イタリア

派遣先機関：University of Padova (パドヴァ大学)

派遣期間：2012年2月20日－3月20日

### 海外派遣先大学について

パドヴァはイタリアの北部三州の一つ、駅から電車で30分ぐらいの距離のヴェネツィアという世界的な観光地の陰で忘れられがちな町だけど、中世から続くボルティコの街並やブレンタ運河に囲まれている、とても綺麗で静かな町である。この静かな町に13世紀頃、ボローニャ大学から飛び出した教授と学生達がより自由な学園を求めて創立したのがパドヴァ大学である。コペルニクスが学び、ガリレオ・ガリレイが講義したことがある、イタリアで二番目に古い大学。今回私の派遣先だったパドヴァ大学天文専攻は、町の中心にある大学本部とは少し離れ、パドヴァ天文台と同じ場所に施設が設置されている。



図1 左図:左側がパドヴァ大学天文専攻の施設、後方はパドヴァ天文台の **Specola** と呼ばれている施設、本町の有名な見どころでもある。右図:天文専攻施設の一階の廊下。写真から見える大学自慢の古い壁は **Specola** の18世紀頃の壁をそのまま保留したもの。

## 海外派遣前の準備について

今回私の受入教官だった Piotto, G. 教授は HST による球状星団の研究ですごく有名な天文学者。彼がリーダーしている研究室は私の研究のメインテーマである青い彷徨星の研究もかなり進んでいて、球状星団の HST のデータを生かして、たくさんの研究成果を出している。2011 年の 11 月、日本で行われたある天文学国際会議で初めて彼に出会い、青い彷徨星についてすこし議論をした。研究会から帰った時、ちょうど海外派遣事業の募集が行われていたので、彼から受入承諾を頂いた上、本事業に応募した。その後は、何回かメールで、日程や研究内容の詳細について話し合った。受入教官からの招待状が届いたら、すぐビザ申請を行い、一週間ぐらいでビザ結果が出たので、計画の日程とおりに出発することが出来た。

## 海外派遣中の勉学・研究について

**研究生活**：派遣先のパドヴァ大学天文専攻の博士課程の学生は所属研究部や学年によって部屋が分けられず、皆 3 階のロビー(エレベーターから出るとすぐ広いスペースが広がっていて、そこに皆の席が並んでいる)みたいな所で研究していた。私もその中で席を頂いて研究していた。皆基本的に午前 9 時ごろに登校、午後 6 時ごろに帰宅という生活サイクルだった。受入教官との議論がメインだったけど、天文台のほうにも同じ研究分野の研究者がいて、そこでも自分の研究を紹介して、たくさんコメントをもらうことができた。

**セミナー・コロキウム**：大学では講義や研究発表がほとんどイタリア語で行っているが、毎週月曜日の午後、博士課程学生のコロキウムでは英語練習のため、英語発表になっているので、参加させて頂いた。その他、天文台では毎週水曜日の午後”Astro-Pizza”と呼ばれる、お昼からみんな会議室に集まって一緒にピザを食べてから当日の発表を聞くセミナーがあって、これにも参加させて頂いた。



図 2 “Astro-Pizza”。毎回大学と天文台から 30 人ぐらいは集まって来る。当日の昼食として天文台から提供されるピザを食べながら皆でいろいろ会話ができる。訪問者の私にとっては、大学と天文台の色々な研究分野の研究者に出会えるいい機会だった。

### 海外派遣中に行った勉強・研究以外の活動について

**ヴェネツィアの観光：**世界的に有名なヴェネツィアは、パドヴァ駅から 30 分ぐらいで着ける、そしてチケットは 3 ユーロで手に入れるのでの滞在中何回も訪ねた。ヴェネツィアは運河が町の縦横に走り、迷路のように狭くて曲がりくねった路地や通りには自動車が入れず、地上での移動方法は徒歩だけ。世界中ユニークで、素敵な自然風景が観賞できる上、町には歩行者しかいないのでとても快適。観光の他、演奏会も聞いた。

**アジアーゴ観測所の見学：**アジアーゴはイタリアの代表的なチーズの一つである同名なチーズを産することで有名だが、天文業界にはイタリアの一番大きい光学望遠鏡が置いてある観測所で有名。ある週末に受入研究室の学生さん達にアジアーゴ観測所に連れて行って、望遠鏡を見学させて頂き、帰り道と一緒にアジアーゴ町によって少し観光した。町は地上 1000m ぐらいの所にあるので、私が行った 2 月末頃はかなり寒かった。

### 海外派遣費用について

航空券は航空会社のウェブページからの直接購入で、20 万円ぐらいだった。一

ヶ月ぐらいの滞在はホテルに泊ったので、全部の費用の中で宿泊費が一番高かった。大学まではほとんど徒歩で通学したので交通費はあんまりかからなかった。食事費は日本とほぼ同じ、昼食は大学の周辺のバーで学生達と一緒に食べていたが、5 ユーロ程度で済んだ。夕食はダウンタウンかホテルのレストランで食べて、大体 10-20 ユーロ程度だった。学校からの海外派遣費で大体全部カバーできた。

## 海外派遣先での語学状況について

**大学：** 受入研究室の学生とか研究員とは英語でコミュニケーションをしていたが、大学の講義や研究発表はほとんどイタリア語で行われていた。学生の英語力もそれぞれだが、たくさんの学生が英語を話せるチャンスだと喜びながら、私によく英語で話しをかけてくれた。語学について特に問題を感じたことはほとんどなかったが、自分の英語力がまだまだ足りないとは思った。

**大学外：** 泊ったホテルや電車駅では英語が通じて助かった。普通のレストランやお店では英語が通じない場合が多い。

## 海外派遣先で困ったこと

大学の学生さんにメニュー翻訳や料理の紹介をして頂いて、食事は英語が通じないレストランでも困ったことはなかった。何回か一人で道に迷った時には、道を通っていた人から先に話しかかかって来て、助けてもらった。この町には優しく、熱情的な人がいっぱい住んでいる！でも、熱情すぎる人もかなりいて、夜徒歩で帰る時は、少し“変な”話しをかける男性が多い。ただ無視すればそれで済むが、相手が少し酔っばらっている時は怖かった。夜の移動はバスか電車でしたほうがお勧め。

## 海外派遣を希望する後輩へアドバイス

非常に良い経験になると思う。自分の研究のネットワークが広がるだけでなく、他の国の違う文化や歴史、人々の考え方に触りながら、自分の心も広がって行くと思うので、チャンスが与えられたなら、是非経験してみしてほしい。